編集後記：最近の不順な天候の影響で，野菜の価格が高騰…（私がこの文章を書いているのは8月末頃です）．本誌で言うまでもないことですが，気象は社会経済といった他分野とも大きく関係しています．気象についてあれこれ考え始めると，ついつい気象学という枠で閉じてしまいがちですが，視野を少しだけ広げて考えてみると，他分野への応用という点で気象学がさらに発展する可能性が見えてきます．

日常の生活に大きく関わる分野として，最近個人的に興味を持っているのが，気象と健康の関連についてです．幼い頃から頭痛持ちである私は，最近になって，天気が下り坂である日に頭痛になりやすいことに気づき，自身の体調のほかに気圧の変動といった天候とも大きく関係することがわかりました．天候が健康に影響するという症状は，インターネットの情報でも多く見かけますし，関連する書籍も出版されています．

また私が現在所属している気象庁気候情報課には，季節予報といった気候に関する情報を様々な分野に利活用するための業務があります．この業務では，農業，アパレル・ファッション産業，ドラッグストア産業といった気候による影響を大きく受けやすい分野について，気候リスクの評価やその対策についての調査を進めています．このような取り組みによって，気候情報へのニーズが高まるだけでなく，気象学に対してより多くの興味・関心を持ってもらうきっかけにもなると思います．

このような気象学の応用に関する情報についても，本誌「天気」から多く発信していくことができればと思いますし，「天気」編集委員として，情報の発信に積極的に携わっていきたいと思います．

（竹村和人）